

八王子の民俗ノート No.3

小名路、三つの謎

細川 哲士

「りやうかいはし」

国道20号線(甲州街道)をわたる鉄橋の下にある橋は「りょうかいばし」と呼ばれている。戦前には石の欄干らんかんがあったようで、四隅に街燈を載せていた台だけが戦災で焼け残り、そこに鉄の銘板が埋め込まれたままになっていた。ひらがなで「りやうかいはし」と書いてあるものと、漢字で「両界橋」と書いてあるものがあった。交通事情が変り、多くの車が行き交うようになると、この石の塊が邪魔にされ、トラックか何かに突き落とされてしまった。同じような運命をたどった美しいお顔の観世音さまは川から拾い上げてさしあげたが、四角い大きな石は重い上に、置き場所がないので放ってある。川底をよく観察すれば今もその御影石たちがあり、それとわかるはずだ。

小さい時、ここを暗くなってから通るのが苦手だった。お化けが出るのに格好の場所だったからである。それに「両界橋」という名前も不気味だった。

先日この橋の上で、名所めぐりのご一行に説明しているガイド風のおじいさんの話を耳にしてしまった。「この橋は、高尾山という聖界と俗人の住む俗界とを分けているので「両界橋」という」そんな話は聞いたことがない。さっそくインターネットを見ると、そのような思いつきを書いている人がいる。この頃は爺さんまでも安易に電腦におかされてしまっているらしい。

この説は日本語の表現法にあわない。聖と俗とを分けるのなら「境界橋」となるはずだが、それは橋の持つ意味上の機能と重なるのでスマートでない。そういう場合はことがらを逆にとらえて「結界橋」というべきところだ。ここはひとつ素直に考えることにしよう。そうすれば「両界橋」は、まさにこの地点に二つの世界が共存していると言っていることがわかる。その二つが何であるかは定かではないが、「金剛界こんごうかい」と「胎蔵界たいざうかい」などというおどろおどろしいものではたぶんなくて、「この世」と「あの世」が同居しているということだろう。

ところが、いままでのところ、この橋の由来について触れている古い史料に出会ったことがない。それが「小名路」第一の謎である。その原因は要するにこの橋自体がさほど古くないせいではないかと思っている。往時この橋の下には橋をかけるべき川がなかったのだ。

「西浅川町一番地」

西浅川町は八王子市と合併するまでは、上長房(かみながふさ)と言った。ついでに廿里(とどり)のほうは下長房(しもながぶさ)と濁って呼んでいた。狭間は「はざま」でなく「はさま」、山田は「やまだ」でなく「やまた」と言っていて、個人的には今でもそれで通している。ところでこの上長房の西浅川部分は、それ以前には小名路(こなじ)と言っていた。その名はいまでもバス停と踏み切りに残っているが、バス停にはルビがふってないし、踏み切りのほうはこないだまで「ここはおなじ踏切です」と鉄道愛好家の為の表示があつて、一瞬どこの踏み切りと同じなのか首をひねってしまったが、たんなる小名路の読み間違いとわかった。だが表示の訂正には、なぜか、かなり時間がかかった。

ところで西浅川町の地番には欠番があるのをご存知だろうか、案内川のほうに川になって住めないよ

うになった地番がいくつかあるようだが、それらは公図には欠けていないようである。公図にもないのが西浅川町の1番地である。昔、明治11年生まれ祖母タケに聞いたところ一番地は川で流れちゃった、という答えだった。地番が成立し公図ができる以前に1番地が川になったということであろう。その場所は現在の「両界橋」の西の隅にあたる。つまり小名路1番地は川ではなかったのである。

「古淵のどこに獅子がいるか」

「両界橋」から川上をながめるとちょっとした溪谷があり、ここを「こぶち」といって、落合に紙工場ができ苛性ソーダとパルプの白い汚水が流れるようになる1950年頃までは浅川じゅうの子供たちがここで泳いだ。暗くなると大人も泳いだ。この近くで育ち水泳が得意となったうちの母フサも、三十代のころ夜ひそかに泳いで、おばあさんに見つかり、みっともないと、叱られていた。

この古淵は小淵とも書くが、ぼくらにとってはあくまでも「こぶち」であって、その意味はどうでもよかった。でも地誌・風土記のたぐいにはここは「獅子淵」として出てくる。大正4年にここで生まれ、ここで育ち、役場に勤め、郷土資料館にも出入りしていた叔父（細川武雄）が、どうして「獅子淵」なのか、ここかしこの岩をためつすがめつしたが、獅子には出会えなかった。ところが獅子はいたのである。

1960年代のある夏のこと、大水が出て、^{そすい}疏水に水を流すための^{せき}堰が決壊した。そのため落合から川原の宿（かわらのしく）まで川底が平らになってしまった。すると堰の材木を支えてきた岩がぼつねんと川の中に置き去りにされて浮かび上がり、それがまさしく猫のように座り込んだ獅子だったのである。写真を撮っておけばよかったと思ったが後のまつり。でもこの堰をコンクリートでつくり直す際、工事担当者は写真を撮っているはずだから、興味ある人は探すといいだろう。もちろんこの岩は残っている。想像力によってこの岩の周りの^{きょうごつごつ}夾雑物を消去すれば獅子が浮かんでくる。

獅子岩は「両界橋」からは見えない。中央線の下に疎水を通してレンガのトンネルをくぐって疎水の取り入れ口まで行けば、その堰の向こう側をささえている獅子に会えるだろう。

昔の旅人には見え、今の人には寄り道しないと見えないこの獅子の存在はやはり、旅人が「両界橋」を通らなかった事を示しているし、それはたぶん「両界橋」がなかったせいであろう。ではいったい甲州街道はどこを通っていたのだろうか？

これらの謎は、おそらく、^{まんじ}万治年中から^{てんわ}天和（1680年頃）に至る六代目設楽左エ門（したらもくざえもん）による浅川の改修とかかわりがある。改修は「獅子淵」に始まって、熊野神社あたりに至ったようであるが、本当のところよくはわからない。資料はすべて失われてしまったようなので、いろいろ知恵を働かせないと、昔を思い描けない。これらの謎を解くためには、じつは、時系列をよく考えての検討が必要であるが、それはあるかないか分らない次回までの宿題ということにしたい。

（ほそかわ さとし 浅川地区在住）

＜細川哲士氏とのこと＞

近世部会の旧甲州街道の実踏調査が、平成25年6月30日（日）の午後実施された。地元の歴史や民俗に詳しい川村文吾氏に、実踏全体の案内をお願いした。その川村文吾氏から御紹介いただいた細川哲士氏からは、両界橋から古淵近辺の説明を受けた。その折、細川氏から参加者全員に1枚の説明書が手渡された。その場の限られた者だけが目にするのでは勿体ない内容なので、その説明書の全文を、今回ここに掲載させていただいた。ご了解いただいた細川氏には心からお礼申しあげます。

細川哲士氏は1942年生まれ、立教大学名誉教授で、フランス文学者である。

南浅川町会で、「南浅川のむかしを語る」を開催

平賀豊 南浅川町会会長にご尽力いただき、平成 25 年 7 月 1 日（月）、南浅川町会館で「南浅川のむかしを語る」と題し、民俗部会の合同調査を実施しました。町会会長、前町会会長をはじめ多くの地元の方々にお集まりいただき、昔の暮らしや人生儀礼、芸能などの分野で貴重なお話をたくさん聞かせていただきました。

参加くださった方々は下記の方々です。

▼南浅川町会のみなさま（敬称略 50 音順）

檀村恒夫、栗原肇、栗原博、小坂近次、小坂敏子、小阪富雄、小阪八郎、小阪三千代、高橋保、平賀豊、平賀珪伊子、八木トミ子（以上 12 名）

▼調査者

宮本八恵子部会委員、大藪裕子専門調査員、神かほり専門調査員、高久舞専門調査員（以上 4 名）

ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。なお、調査した内容は、平成 26 年度に刊行予定の『新八王子市史民俗調査報告書 第 3 集 浅川の民俗』で活用させていただきます。

（報告：市史編さん専門員 春日祐美）



南浅川町会館での調査のようす。予定の時刻が来ても、興味深い話が尽きませんでした

浅川村と農民美術 一高尾山の観光土産の誕生一 佐藤 広

民芸の柳宗悦（1889～1961）は、山本鼎（1882～1946）の農民美術運動を厳しく批判している（「農民美術と民藝運動」『柳宗悦全集』10巻）。柳も山本もほぼ同時代に農民の“美”を扱うが、その理念も実践も異なるものであった。ロシアの農民美術から展開した山本の美術運動は、民芸運動とは異なり、大正から昭和はじめの貧しい農民の暮らしに直接貢献したことは確かである。市内浅川地区の例をみてみよう。

農民美術の講習会 大正14年3月1日発行の『農民美術』第2巻3号に、「婦人向きの新副業 浅川村の講習会」と題して、洋画家で版画家でもあり日本農民美術研究所を現在の長野県上田市郊外に設立した山本鼎（やまもと かなえ）が記している。

山本の論文によると、現在の八王子市浅川地区の浅川村で、農民美術研究所の副業的手工芸の講習会が開かれた。講習生は男子が25名、女子が11名で、合計36名が受講している。女子11名は「置き更紗」の講習を1か月間受け、婦人たちは南多摩農美生産組合をつくったとある。受講者数からいっても、置き更紗以外の講習があったものと思われる。

この置き更紗の技法は農民美術研究所で工夫したもので、糸や布を染めるのではなく、型紙を用いて顔料を布地の上に置いて摺り込んで模様とする。製品はカーテン、壁掛け、襖地（ふすまち）、書棚のカーテン、アルバムや書籍の表装などが考えられている。山本は、安価で美術的にも質の高いものを目指し、生産者の「図案鑑賞の知恵」の啓発の必要性を述べ、図案は作り手の身の回りの自然を活かすことを提案している。この論文に続いて三枝古都が、浅川村の講習会をもとに「置更紗の作り方」を執筆している。

大正期の副業奨励 東京日日新聞（以下、日日）によれば、大正6年に八王子市と南多摩郡農会主催の副業展覧会が八王子商業会議所で開かれ、また、上野公園では東京府島嶼及郡特産品奨励共進会が開催されている。東京府をはじめ八王子市や南多摩郡の各村々においても産業政策として副業奨励が行われていた。浅川村でも様々な試みが実行され、大正6年の秋から、萱（かや）の根を用いたタワシとブラシの生産をはじめたこと（日日 大正7年1月31日）や、浅川村小名路の峰尾さんが二反歩にわたって苺（いちご）を栽培し、苺の出荷とともにジャムの製造も行うことなどが報じられている（日日 大正8年6月4日）。

農民美術と高尾山土産 「売れる 売れるお面 浅川産の農民美術 南多摩郡浅川村農民美術会で制作するジグスやマギーのお面をはじめ窓かけ、額縁等は東京方面からの注文殺到し製造が間に合わぬ有様で、さきに山本鼎氏の講習を受けた会員30名は大喜びで制作を急いでいる。お面は1個20銭で高尾土産として羽がはえて飛ぶように売れる」（日日 大正13年11月29日）とあり、農民美術による高尾山土産の販売が成果をあげている。この事業のきっかけは、農村窮乏を救うために南多摩郡農会員が農民美術に注目し、大正13年の11月1日から1か月間、農林省と東京府の後援で山本鼎氏らを招いて農民美術の講習会を開いたことで、翌月には講習生で生産組合が組織されている、と大正15年12月3日の東京日日新聞の記事「農民美術が再び新活路へ（下）」に記されている。

先に触れた山本鼎の論文は、浅川村で大正13年に実施したこの講習会のことで、農民美術研究所の講習会が全国的に展開する時期であった。「昭和5年に農民美術製作組合は3府12県に亘って49を数えるに至った」（出川直樹『人間復興の工芸』1997）。こうした事業が、後の高尾山土産の天狗面（美甘由紀子「高尾山の魔除天狗面」『八王子市郷土資料館だより』74 2003）やウグイス笛などの生産とどう関係するのか、置き更紗のその後、地域の暮らしとの関係など、市民の皆様からご教示いただき、全国的な動向と合わせて検討してみたい。（専門管理官：さとう ひろし）

浅川地区の水と八王子の町 —大正年間の新聞記事の紹介—

1 八王子市街地の水問題

八王子市は、明治 30 年（1897）の八王子大火をはじめ、たびたび火災に悩まされてきた。公衆衛生上の課題もあり、行政では早くから水道の必要性が唱えられていた。しかし、八王子市の市街地では伏流水や湧水、井戸、小河川などから比較的簡単に水を入手しやすく、また水道の敷設には莫大な施設整備費を要することなどから、市民の理解を得られず水道の敷設はなかなか実現できなかった。

市制を施行した大正 6（1917）年、このころ浅川村から横山村を経て八王子の市街地まで用水路を結び、市街地の下水路に水を引き込む問題が再浮上した。“再浮上”といったのは、江戸時代の文政 7 年（1824）の大火後、現在の西浅川町の両界橋付近の獅子淵からの水を分水し、八木宿、八幡宿、八日市宿、横山宿の「中通り悪水堀」へ水を引き入れる計画があったからである（『新八王子市史』資料編 3 近世 1 237 頁～244 頁）。八王子の水問題は、江戸時代から近代になっても重要な課題であった。

ここでは、大正 6 年から大正 15 年までの『東京日日新聞』に掲載された、八王子市街地の水問題に関する記事を紹介する。

八王子市では大正年間、公衆衛生の課題のみならず織物産業や他の工場建設などで水道の必要性は高まり、関東大震災も経験し、水道敷設の機運が高まった。ようやく、大正 14（1925）年からの 3 か年事業として市議会で決定され、大正 15（1926）年 11 月に起工式が行われ、昭和 3（1928）年 9 月 1 日に給水を開始することができた。わが国の近代水道が、横浜で最初に完成した明治 20 年（1887）から、39 年後のことであった。

<参考文献> 『八王子水道八十年のあゆみ』八王子市水道部 2010 年

『八王子市史』上巻 八王子市役所 昭和 38 年

2 浅川地区から旧市街地への引き水に関する、大正年間の新聞記事（東京日日新聞）

東京日日新聞は、明治 5 年（1872）に創刊された東京で最初の日刊紙で、現在の『毎日新聞』の前身紙の一つである。

記事の原文は、縦書きで漢字には振り仮名がふられている。原文に読点（とうてん）はないが、読みやすくするために編者が振り仮名は削除し、読点を新たに付けた。原文には当て字もあるがそのままとした。読者のみなさんが、記事を自由に読んでいただいて、分析を試み、楽しんでいただきたい。

① 大正 6 年 3 月 17 日 東京日日新聞 武相版「八王子の水路問題 委員会は可決す」

府下南多摩郡浅川村より、横山村に至る国道に沿い流下する用水路を延長し、八王子町の両下水に通じて防火用に供せんとする計画は、過般町会の諮問案として発案され、委員に付託調査中の所、下流に氾濫の恐れあると、灌漑用水枯渇関係ありとの杞憂を懐く者ありて、各々関係者の調印を求め、町役場に提出せるを以て、委員会は更に慎重な調査を遂ぐるため、一時延期されたるが、前用水路延長出願者よりは、更にその故障排除の追願書を提出せるを以て、委員会は、十五日再調査の上支障無き者と認め、近々開会の町会に報告さるべき由なり

② 大正6年8月1日 東京日日新聞 武相版「八王子地方の引水協議」

府下南多摩郡浅川の水量は、連日の旱り込みにて日に日に減水し、之が為漸く稻田の引水不足を訴うるに至れるが、八王子元横山方面にては、その減水に処する最善方法を講ぜん為、三十日午後九時頃より元横山帝釈天の殿堂内に、同地方地主及び耕作人の集会を促し協議を遂げ、其の結果同地方区域を上部の部と下の部に分ち、隔日に引水を為すことを議決し、三十一日より実行し居れり

③ 大正6年8月14日 東京日日新聞 武相版「八王子の疎水問題は先づ延期 請願書を撤回せむ」

府下南多摩郡浅川村より横山村地方が、甲州街道に沿ふて流通する用水路を八王子町に延長して、一部を動力用に供し、兼ねて防火用水たらしめんと、関係町有志より出願せる疎水問題は、先づ町会に故障の有無を諮問せる処、議員中に反対意見を固執する者ありて、遂に延期するの止むを得ざるに至りしが、八王子町を近く市制を施行するの機運に際し、町会は来る十六日の決算報告会を以て最終とするに至るべきより、委員は之が報告を了すべき予定なりしも、提出側にありては斯る問題を終末に提出して、議論を惹起するは面白からず、更に機を見てその遂行を期するを得策なりとし、この際一時撤回することとなりたりと

④ 大正8年5月16日 東京日日新聞 府下版

「水道問題と防火設備 横浜より勝れる点＝大火視察員報告＝」

過般の横浜大火災を調査せる八王子視察員の報告に依れば、横浜の消防は大都市たるに似合はず各部独立の組織となり、頗る統一をかけるものあり、之が為出火に際し消防上の不便抄くなかざるが、更に看過し難きは水道の用を為さざりしにあり、然るに同市はその頼み難き水道を便りとして、消防の設備を閑却せるもの如く、先年有吉県知事在职中巨万の資を投じて、横浜市消防機関を整備するの計画を立てたる所、一議に及ばず否決されしことあり、常時を知る者は氏の先見に服することならんとおもふ、八王子の消防は旧来の習慣によって各町村分立されありと雖も、能く一令の下に進退する組織なれば、斯かる弊に陥らざるは考ふべし、唯水利については堀井戸の外何物も無きより往々にして水道敷設を唱へ、万全の如く心得居る者あるが、今回の経験よりすれば水道決して万能のものにあらざることを立証されたり、されば将来市に水道敷設を唱ふる場合ありとせば、火災防御に対しては相当割引して考ふるの必要あり云々

⑤ 大正8年5月22日 東京日日新聞 府下版

「下水路の改修と・・・防火設備が急務 八王子市を視察して 岩田東京府内務部長談」

岩田東京府内務部長は、林属を随へ此程八王子市に出張、先づ郡衙を訪ひ内山田郡長以下吏員一同を会して訓示後事務の検閲を行い、夫より市役所府立染色及第四高等女学校を視察し、更に久保田工業部並に織物工場を視察せり、氏は語る「八王子市は府下唯一の工業都市として、将来の施設経営に俟つべきもの少なからずと雖も、就中防衛行政上の施設として、彼の下水路の改修を断行するが如きは急務中の急務なりと信ず、又彼の防火設備の如きも人家の集積せる都市としては頗る不完全なるが如く、先年の大火並に今回の米沢市に於ける視融の災に鑑み、特に市理事者並に市民の注意を要する問題なりと信ずるものなり、聞くが如くんは米沢市は今回の災害の為め、八王子と同様同地方の特産とし同地方の重要産物とせる米澤織物が為めに全滅せるに、近く災害前の状況に復活すると、容易の業にあらずとすら伝ふるものあり、一朝不幸にして我が八王子にも米澤市と同様の大火災を蒙るが如き場合あらんか、隆隆たる同市の盛運を損ずると少からずものあるは勿論、最近市制を施したる趣旨をも没却するが如き結果を見んも計り難く、彼の下水路改修を断行すると共に、一日も早く防火上の設備完成に努力せんと切望の至りに堪えず、又納税関係につき同地方の状況

を聞くに、八王子市は近来その成績頗る上れるものあるも、尚ほ同市を包圍せる南多摩郡の成績に比し頗る劣勢の觀あり、嘗に同地のみならず府下の重用物産たる同地の織物業が、其發展目覚ましきものある且つ同地方の一般經濟狀況亦頗る良好なるに拘らず、独り納税成績に於いて斯くの如く劣悪なるは吾人同市の為に之を惜しむものなり」云々

⑥ 大正 10 年 8 月 15 日 東京日日新聞 府下版「浅川用水延長問題 兄の遺志を継ぎ 梅原氏計画す」

高尾山麓浅川村の用水を延長して、八王子市街表通りの南側下水道に注ぎ、衛生と警備の目的を達せんとする計画は、数年前同市八幡町の有志梅原勘兵衛氏に依りて唱道され、水源地及び沿道関係村落承諾も済み、八王子市内各町に於いても賛成あり、一部疎水工事に要する資金の問題を残すのみとなっていたが、先年梅原氏物故の爲め自然消滅の姿となり、一般からも閑却の有様となった、其処で氏の令弟梅原信之助氏は故人の遺志を継ぎ、此程浅川村より一旦放水する地点に設置の精米水車と、其の敷地及水利権を買収したれば、用水引入れも将来直通となし得べく、従つて従来一部に氣遣われたる出水ごとの堰堤改修も必要を見ざる訳となりたれば、氏は過般柴田市長に其の理由を述べ尽力を乞ふ所あつたが、柴田氏は一昨日各町世話人會議の開催を機としてこれを諮りたる所、何れも賛成の意を表したれば、愈々近く具体的の計画を定め、多年の懸案解決の運びとなるべしと

⑦ 大正 11 年 6 月 17 日 東京日日新聞 府下版「面倒な疎水問題 道路の拡張が困難」

浅川及び横山両村沿道の用水を延長して、目下八王子市大通りの下水に注下させる水量は、散水用としては稍その用を弁じているが、消防用には不十分の感あるため、これが水量の増加を希望するもの少なからぬが、現在以上の増水には上流千人町地先溝渠の改修を要すると、現に引用する水に対しても八王子市役所が当分試験的に疎水していることとて、上流地方になほこれが徹底的協議をなすの要がある、そは何れにか纏まるべきも問題は下水の改修で、これを拡張するには建物移転の箇所も少なからず、これに対して市当局は府費補助の内議ありと説明しているが、ここに問題なのは追分町の一部三叉路の一端で、この際市が買収して拡張用地に充つるにあらざれば折、角千人町通りの協定をなすも実用の覺束なき明瞭な事実である

⑧ 大正 11 年 7 月 26 日 東京日日新聞 府下版「苦情続出の下水路 衛生上の研究問題」

八王子市には適当な下水排泄路がないので、下流の地方は常に苦情の絶え間がなく、近頃問題の高調されているのが旭町の一部から明神へかけての下水で、昨今の暑気に住民が鼻持ならぬ程の臭気が発散し、衛生上からも看過しがたいと、金子市議會議長以つて市当局に嚴重な談判を持ちかけ、どうやら解決のつきかかった折、今度はその上手の停車場前の排泄が悪いと、小川府會議員が昨日市役所にこれが改修を談判した、その要旨は金子氏の談判で解決した、下水の上手は昨年巨額の市費を投じて数十間に亘る下水を改築したのであるが、技師が測量を誤つて二尺余も底部が高いから、旭町の下水が疎通せぬとのだといつている、これに対し市役所側では、底部の高いのは認めるが、一体各運送店前通りは地盤が低いので、南方の高地へ流下の見込みはなく、寧ろ北方へ疎通せしむるを可とする意見もあつて、近く技師の調査を命ずる方針のやうだが、これも果たして理想通りに改修されるかどうか疑問らしい、元來同地の一部は非常の低地であつたのを、そのまま家屋を建設したので、今更これに完全な排水設備を施すことは頗る困難事であるが、家屋や地所所有の関係もあつて放任もならず、市役所がどんな施設をなすか苦心も少なからぬことであらうし、しかして八王子の地勢は下水排泄が頗る不便の所で、北裏は浅川が貫流するも河床高くして排水が至難であり、これを東方に導くには開削を試みねばならず、それには巨万の改修費がいらうが、近く十万の人口増加を予期し

て水道の計画中だといふことであるから、独り飲料水のみでなく下水の問題も衛生上から考えて、何らかの
尽くされるであろうと

⑨ 大正 11 年 8 月 12 日 東京日日新聞 府下版

「八市へは用水をやらぬ 上流が反対で昨日から断水 裏面の風説に八署が調査」

浅川村の用水を引いて八王子市街表通りの下水に流通せしめんとする問題は、過般関係町惣代の協議会に
おいて、異議なく決定し、その交渉を上流千人町有志に一任となったので、福田政治郎、原川定吉、八木岡
英一、三氏が浅川及び横山両村の総代に会見協議中であつたが、一昨日に至り平野、大貫両総代より委員協
議会の結果、八王子の要求には絶対対応し難い旨、書面を以て回答をなし、昨朝より断水を執行したに付き総
代三氏は、該書面を添、昨日市役所に報告の上、不日関係町有志の協議会を開く準備中である、右断水の裏
面には、種々に経緯がひそみをすることは周知の事実であるが、八王子警察署においては、防火上最も必要と
認め、最初流水の斡旋をなした関係もあり、かつ断水に至るまでの間に、種々の風評も聞こえているので、
近くその原因を調査し、何分の措置をとるさうである

⑩ 大正 11 年 8 月 29 日 東京日日新聞 府下版

「用水権が二千元 既往の費用をつぐなへと 水元の委員が要求」

八王子市外浅川村及び横山村の路傍を流るる用水を、八王子市街の下水に流下せんとする問題については、
既報のごとく一昨日八王子市より、委員として小川辰次郎、秋山嘉右衛門、来住野縣三、大野清次郎、福田
政次郎、原川定吉、八木岡英一の七氏、水源地浅川村に出張、大貫孫三郎氏方において、同地の委員平野松
三郎、大貫六之助外数氏と会員懇談を遂げたが、大貫氏から往年浅川横山村両村に引用するにあたり、多額
の経費を用せるを以て、その保障の意味で、二千元の出金を要求したので、考慮の上回答することとなし辞
去した由である、該同問題は、両村の委員中八王子市の引用を目的とせるもの少からぬが、その中無償派は
過般来八王子の有志と会見、略諒解をなし居るも、有償派はこの際既成の経費分担を主張し、今回の会見に
は無償派にかはって出席せる形勢がある、しかししてここ数日間は浅川出水の堰樋の修繕に着手し難く、そ
の間交渉は自然打ち切りの姿となる様だが、八王子市にては不日各町委員会を開きて協議をなす筈である、
併し大勢は斯くの如き不当の要求に応ずることは、不可能なりとの意見多ければ、両村委員が要求をあらた
めざる場合、或ひは交渉不調に帰すべきやも知れぬと

⑪ 大正 11 年 12 月 26 日 東京日日新聞 府下版

「井水が涸れても これで安心 浅川の引水やと通水 水元から無条件提供」

八王子市内大通りに沿うて通ずる溝渠に、浅川の水を引防火のそなえとなすの儀は、既報の如く水元なる
浅川横山両村関係者の提案に、八王子市が容易に応ぜず、その間に多少感情問題もまじへられて、一時行き
なやみの形となった、水元両村が無条件で提供すといひ出し、裏面に報謝の増金をなす諒解がなつたので、
二十三日八王子市より、大野、秋山、小川、来住野の各市会議員に、八木岡、原川等千人町有志の七氏が、
責任ある交渉委員として、浅川横山両村主立者と会見した結果、同日夜から通水する事となった、それで千
人町通りのドックが未だ改修されぬため、通水量は浅いがそれでも千人迫分け、八木、八幡、八日、横山と
大通りそひの溝渠に、五七寸の水深で流水し、横山町交番前から南折して織染学校前通り北側の、大溝にお
とされつつある、これにつき最初から斡旋の労を取っていた新納八王子署長は、満悦の態で「火災期を控え
て雨雪を見ぬ事久しきため、市内の防火用井水は漸く水深を減じ、過日新調したガソリンポンプの放水試験

に使った万町通り観音寺前の井戸の如き、吸水三十秒で涸れてしまった程だ、即ちすはといふ場合水のない程困まる事はないのに、浅川の引水が通じたとなるとよし 水深は浅くとも、勾配が急だから通水量は可なりによく、堰止めて使えば今日（二十五日）到着する自動ポンプへの給水も十分間に合ふと思ふ」云々

⑫ 大正 12 年 1 月 16 日 東京日日新聞 府下版「**渴水する 消火井戸 八市の危険**」

雨雪らしい雨雪を見ぬ事久しいので、八王子市内井戸水が枯渇し、飲料水にさえ困ってる向きが少なくないが、それより市民一般の不安とするところは、すわ火事！という場合の水の手が、市内には消防用井戸の百五十カ所ほど掘削してあるが、昨今の渴水で三分の二以上は唧筒の吸管を浸す役に立たず、八王子目貫きの場所なる八日町一番地（八日横山大通りの十字路）にあるものは、水深遂に二寸四分、南新町栃木亭前のものは水深四寸、南横町のものは八寸といふ殆ど涸渇し、尽くしたに近いものさえ少なからずある、これにつき、昨日市の消防署の原主任は語る「まず一尺五寸以上あれば役に立つといへるが、それだけの水深あるものは全市消防用井戸の三分の一に足りぬ心細さで、横山町で最新自動ポンプをかけて見たら、三十秒で水が涸れて終わった、井戸はあっても用をなさぬのだから、昨今は万一の場合との井戸を用ふべきか、即ち某町に出火があったら、ポンプはどこかの井戸を目ざし出動すべきか、といふ事に苦心研究してる有様でスワといふ時火事場へ駆け付けても、水がない為ポンプの用をなさぬ場所が多いのだ、小門町の如きは稲荷森下に一つ用をなすものがあるばかりだし、梅原横町辺なら天町口角氏前の井戸へ走らねばならぬ、そしてホースを百五十間も延ばして使わねばならぬが、たいていの井戸はホースを百五十間つなぐと、筒先まで水が入って来た位で、火の上へかけられる水の出ぬ中に、吸管へ補給する井水がなくなると思われる、こんな有様で、危険この上ないから、今日（十五日）は消防井戸の水深調査を提げて、市へ交渉やる積りだ、消火井戸を掘った各町会へ対しては、年々渴水時に警告しているのだが、風馬牛に聞き流してるので困却してる、また、一方大通りの溝へひいた浅川の水は、流れるには流れているが、千人町辺では堰溜めると、道路へ流れ出してしまふし、八幡八日と流れ下がっては、溝底の斜面が緩やかになってるから、流量が余程へってると思はれるので、これも間に合ふか如何か、今日試験して見る積もりだ、何しろ市内目貫の通り筋の渴水が、殊に甚だしいのだから、安閑としている訳には行かぬ」云々、因みに昨今の如き寒天の晴れつづきでは、たとひ多少の雨雪あるも地下水は増さず、一日平均二分四厘つづ減水するといふ事が、消防署の実験結果に現れている

⑬ 大正 12 年 4 月 25 日 東京日日新聞 府下版「**千円を提供して 用水問題解決 昨日関係委員正式会見**」

高尾山麓浅川村より、横山村沿道地先を貫流する用水を、八王子市の下水に流通せしむる問題は、現に試験中であって、その成績佳良な所から、愈々昨日午後四時、水源地の岡村有志と、八王子市の総代が浅川村小名路花屋旅亭に正式の会見を遂げ、八王子より補償の意味で、金一千円を提供し、将来永久に八王子市内を流通することとなった、右に付き千人町溝渠の改修も近く着手され、これが完成と共に、市内大通りは南側に疎通せしむるに至らう

⑭ 大正 13 年 4 月 10 日 東京日日新聞 府下版「**八王子の溝渠に 防火用水を流す 数年来の懸案解釋**」

高尾山麓浅川の用水をひいて、八王子市大通りの南側下水に疎通せしめ、防火用に共せんとする計画は、東京府の認可に支障があり、公然の手つづき不能であったが、今回府知事から同市千人町の北側、及び追分町より両側に分岐して、横山町一番地先に至る、延長二千九百九十四間流通の許可があったので、沿道千人町の溝渠は、近く改造工事に着手さるべく、多年の懸案全く解決して、市民は防火、衛生、撒水の便を得る

こととなった、ちなみに引用水量は、防火その他非常時の他一二五立方を、限度となし、引用期間は大正十八年三月までである

⑮ **大正 13 年 6 月 4 日 東京日日新聞 府下版「千人町の 溝渠完成す 消防用水心配なし」**

八王子市千人町通り、北側の防火引水の溝渠幅一尺五寸、コンクリート塗りの完全なものに改修中であったが昨日大体竣工した、そして長さ約七百六十間の間に、五十間置きに消防用のタンクも作られ、追分以東は大通りの両側に、不断の水が流通する事になったので、これで消防用井戸の渇水時も、水不足の心配はなくなったと

⑯ **大正 13 年 12 月 2 日 東京日日新聞 府下版「火事季節に 井戸検査 悪井戸は補助して修理」**

八王子市では、火事季節にはいったので、三十日市内百五十六個の消防用井戸について一斉検査を施行した、現在水の深さは平均五尺一寸一分で、先月中旬から見ると三尺四寸の減水である、最も水量の多いのは本町の六尺で、最も少ないのは上野町方面の二尺五寸だが、実際消防にあたっては三尺以下の水深では使用にたへないので、これ等水量不足の井戸には、一個五十円づつ補助して急速改修する事とした

⑰ **大正 14 年 5 月 1 日 東京日日新聞 府下版「八王子の 消防井戸増水」**

八王子市内百六十五の消防井戸は、四月に入って著しく増水し、同月末日の平均深水三尺九寸、三月末日平均一尺三寸に比して二尺六寸の増水であり、最も深い井戸は八尺、浅いもの一尺である

⑱ **大正 14 年 11 月 12 日 東京日日新聞 府下版**

「盛り土になやむ 八王子の井戸 火事の消防にも・・・掘り返して探す始末」

八王子市の消防用井戸は、全市二百六十三カ所に設けられてあるが、大通りの辻辻にある井戸はもり土のため、井戸のふたが地下一尺位埋没されて所在不明となり、火事の際は井戸を探して、後鶴はしで掘り出さねばならぬ始末で、市でも火事季をひかへ頭をなやましているが、大通りの盛り土のため、街路が店舗の敷地よりすでに二尺以上も高くなって問題になっている、折柄将来街路の修繕は盛り土によらず、他の方法を講ぜねばならぬが、経費の関係節当局は対策研究中

⑲ **大正 15 年 6 月 5 日 東京日日新聞 府下版**

「井戸と 溝渠の流れを 今後の消防用に 八市消防用井戸の 掘鑿は中止する」

八王子市の消防井戸は、年々増掘を続けて、現在百七十余に上っているが、少し日照りが続くと減水し、殊に本年の如きは旱天甚だしき際は、その大部分は涸渇して用をなさないもので、市では善後策を講究中であつたが、今回消防用井戸の掘削を中止し、今後は溝渠の流れと既設の井戸にたよることになった、近日中に消防会議が開かれ提案さるべく、なほ組織の充実策として、子安町に消防器具の設置と、全国に魁する破壊消防隊の新設が、議に上され通過を見る模様である

⑳ **大正 15 年 8 月 18 日 東京日日新聞 府下版**

「消防用水を 稲田に引用 非常手段として市でも 大体承認のもよう」

干天続きのため、八王子南多摩地方の水田が、水不足に陥っていたことは既報したが、十七日午前からめぐみの雨が降り出したので、農家は喜んだが、水田に灌水する程度のものでないので、何れも善後策を講じ

ていたが、元横田町方面では、市内を貫流する消防用水に眼をつけ、代表者として午前九時八幡町長谷部良助、元横山町新井弥三郎、新町原嘉助の三氏、市に出頭、同用水を大横町より導いて、浅川橋畔から引用したいと願った、市では火災時期ではなし、下町方面の消防井戸は割合に完全なものが多いので、大体においてこの願ひを差つかえなしと認めたが、なほ一応消防係員警察署とも相談の上回答する旨伝へたが、結局時間を定めて引用させる模様である (専門管理官 佐藤広)

市制 100 周年記念事業

平成 28 年 (2016) 度まで

八王子市市史編さん

民俗調査のお願い

八王子市は、大正 6 年 (1917) に市制を施行しました。そこで、市制 100 周年記念事業として『新八王子市史』の編さんをすすめています。将来の八王子市を展望するためには、先人の残した貴重な資料を保存し、活用できる環境を整備する必要があります。

今日、八王子市は大きく変貌しています。そこで、市内の伝統的な生活文化を聞き取り、文字で記録して後世に残すため、八王子市市史編集専門部会の民俗部会で地域の民俗調査を実施しています。何卒、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

◆民俗調査の内容◆

地域に伝わる次のような伝統的な生活文化を調べます

1. **社会生活** 地域の範囲と区分、家数の変化、町会活動、親分子分、共同の仕事、屋号、こども組、冠婚葬祭、青年団、消防団、コミュニティ活動など
2. **生産・生業** 農作業、山・田・畑の仕事、目籠作り、養蚕、機織、畜産、職人などの生業
3. **住まいと環境** 民家、集落の立地と屋敷、水の利用、カマド、ヒジロ、風呂、便所のことなど
4. **衣食をめぐる暮らし** 衣料の調達、仕事着、ふだん着、食料の調達、食事の仕方、主食、副食、間食、調味料、茶と酒、行事の食べ物など
5. **年中行事** 正月の準備、正月、春・夏・秋・冬の行事など
6. **人生儀礼** 誕生と育児、結婚と結婚式、葬式、墓制など
7. **寺社と民間信仰** 寺院について (歴史・住職・寺の行事、檀家・墓地・葬儀・境内の神仏など)、氏神と氏子、神職、お日待ち、講、地域や家々で祀る神仏、民間信仰など
8. **民俗芸能** 獅子舞、盆踊り、娯楽・芸能、子供の遊びなど
9. **口承文芸** 昔の話、伝説、世間話、俗信、わらべうた、民謡など



上恩方町での聞き取り調査 (平成 22 年)

◆八王子市市史編集専門部会民俗部会のメンバー◆

- | | | |
|-----------|-------------------|-----------------------------------|
| 1. 部会長 | 小川 直之 (おがわ なおゆき) | 國學院大學教授 |
| 2. 副部会長 | 津山 正幹 (つやま せいかん) | 八王子市文化財保護審議会委員 |
| 3. 部会委員 | 小野寺 節子 (おのでら せつこ) | 國學院大學兼任講師・
東京都文化財保護審議会委員 |
| 4. 部会委員 | 加藤 隆志 (かとう たかし) | 相模原市立博物館学芸員 |
| 5. 部会委員 | 入江 英弥 (いりえ ひでや) | 國學院大學兼任講師 |
| 6. 部会委員 | 宮本 八恵子 (みやもと やえこ) | 日本民具学会会員 |
| 7. 専門調査員 | 大藪 裕子 (おおやぶ ゆうこ) | 東村山ふるさと歴史館学芸員 |
| 8. 専門調査員 | 神 かほり (じん かほり) | 日本民具学会会員 |
| 9. 専門調査員 | 美甘 由紀子 (みかも ゆきこ) | 八王子市郷土資料館学芸員 |
| 10. 専門調査員 | 乾 賢太郎 (いぬい けんたろう) | パルテノン多摩歴史ミュージアム学芸員 |
| 11. 専門調査員 | 高久 舞 (たかひさ まい) | 國學院大學研究開発機構研究開発推進
センター ポスドク研究員 |
| 12. 専門調査員 | 三代 綾 (みしろ あや) | 國學院大學大学院生 |

このほか、八王子市市史編さん室の職員が調査協力をお願いしたり、行事を拝見させていただいたり、資料を拝借しに伺ったりすることもございます。

<問い合わせ先>八王子市 **市史編さん室**

〒193-0943 八王子市寺田町1 4 5 5番地3

電話 042-666-1511 / FAX 042-666-1512

E-mail b420000@city.hachioji.tokyo.jp

ホームページ <http://www.city.hachioji.tokyo.jp/seisaku/13570/index.html>